

○第1回安曇野市緑の基本計画推進協議会での主な意見

【重点テーマ1（公園の再生）】

- ・駐車場から公園までの距離が長い。また、椅子の数がすごく少ない。木陰や休む場所が少ない。安曇野市だけでなく近隣市町村も同様。せめて広い公園には木陰が欲しい。
- ・まちなかを歩いていても木陰がない。これでは観光で町おこしは出来ない。
- ・自転車で街中を周回できるルートを作るのであれば、拠点となる地点数キロほどは少なくとも並木道にして木陰にしておけばよい。現状観光ルートはすべて炎天下。
- ・足の不自由な人には許可証を発行するなどして公園内に車で進入できる仕組みを作ればよい。
- ・樹木を増やすのであれば管理するところまで考える必要がある。その場所にあった木を植えることが必要。
- ・緑化フェアでのイベントがだんだん縮小している状況は残念。予算や人員の関係で継続が難しいことは理解できる。
- ・長期的な計画で街中整備を行ってほしい。安曇野市は断片的な整備で終わっている。ニーズはどうやって把握しているか。
- ・緑化と同時に舗装問題を考えていかないといけない。土の道なら落ち葉、鳥の糞などの問題も少ない。
- ・公園維持、街路樹は近辺の住民で管理していかないと守れない。どのように実行部隊を増やしていくかが課題。実際には地域に人はいるが地域活動を行わなくなっただけ。
- ・実際に計画が実行されて緑化が進んだとは言えず、10年前より悪くなっている。行政は一生懸命頑張っているが、いかに地域住民に活動してもらうか。
- ・各公園で管理の割合が偏っている。市内で調整すべき。
- ・遊具の無い公園は問題ない。子どもは遊具がなくても遊ぶ。
- ・アルプス公園管理は、区民全員でのボランティアである。アルプス区には庭師がおり樹木に関してはすべてボランティアで対応してくれている。技術のある人材の確保も大切。

【重点テーマ2（緑化の推進）】

- ・アルプス花街道は現在団体数が減少している今後の対応どうするか。国道147バイパスの緑地への緑化活動は団体がいなくなり活動できなくなった。どれだけ団体に働きかけるかが重要。
- ・老人クラブは役員の負担が大きい。どの団体をどう活用するかが重要。
- ・地元の学校（南農高校）との連携、イベントが大事。そこから花の種銀行など繋げていけばよい。
- ・なぜマリーゴールドやハナモモが多いのか。安曇野に合う花があるのでは。
- ・世界的には、一度植えたら何年も継続して大きくなっていくガーデンが主流になっている。三郷のゴーラウンドガーデンも同様の考え。1年目は花と花の間に隙間があるので除草が必要だが、大きくなって隙間がなくなれば雑草が生えなくなる。
- ・町の中、田んぼの中など、エリアごとに合う花の種類は考えられているのか。
- ・インターを降りてきてマリーゴールドは違和感。安曇野市の看板にしたいなら、安曇野市らしい花を植えた街道を広げていけば努力も無駄にならない。
- ・ゴーラウンドガーデンでは、株分けした花の株をボランティアに配布している。ガーデン以外で広がっていけば、ゴーラウンドガーデンが絶えてしまっても周りに花が残る。
- ・拾ヶ堰の自転車広場（サクラ、芝桜）は今や安曇野市の観光名所。つい最近までは、雑草が繁茂して荒地であったが今や名所。そのようにデザインしてることが大事。